

令和7年度 馬橋西地区意見交換会のテーマについて

（団体名） 虹の街町会

（件名） 災害時に住民を水害から一時的に避難し命を守る街づくりについて

（具体内容）

新松戸、西馬橋、栄町は、江戸川と常磐線の間が液状化の可能性が大きく、洪水ハザードマップ（江戸川洪水想定区域図）では洪水想定区域となっている。地域の防災訓練も行っているが、浸水が押し寄せた場合少しでも高いところへ避難することが重要である。

木造住宅の2階に上がると3mはあるが必ずしも丈夫な建物ではない。

この地域からの避難は常磐線及び6号線を超えていくことが安全ではあるが、高齢者や体の不自由な方々が雨風をしのいでいけるのか不安である。また、雨風をしのぐ場所もない。

そこで、丈夫で高い建物（マンションや商業施設等）を一時避難場所として使用させてもらえないか。

市はいくつかの業者団体などと協定を結んでいる実績があり、積極的に介入してもらい、町会とともに市民の安全を守ってほしい。

（回答）

- ・ 現在、「水害時に垂直避難が可能な避難所」としては、「水害ハザードマップ」の避難所名に下線が引いてある、旭町中学校・旭町小学校・馬橋小学校などの小中学校、馬橋ステーションモール・松戸競輪場など合計25か所となっている。
- ・ 市としては、浸水想定区域に在住する市民に対して早め早めの避難指示等の情報発信を行い、JR常磐線東側の高台に避難を促すことが最も重要であると考えている。
- ・ また、万が一、逃げ遅れた場合の対策として、命を守る最終手段として公共施設や民間企業等の堅牢で高層な施設への垂直避難も可能である旨を啓発している。
- ・ 今後も、防災訓練やパートナー講座などで、水害時の避難方法について啓発するとともに、浸水想定区域に所在する高層建築物の所有者等に垂直避難場所として支援してもらえるよう協議していく。

（回答課）危機管理課